

●第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート参加報告

九州大学大学院農学研究院 池上 啓介

先日6月に日本生理学会の推薦を頂き、第3回日本医学会連合 Rising Star リトリートに参加して参りましたので、ご報告いたします。

会議：第3回日本医学会連合 Rising Star リトリート Deciphering Biomedical Systems—生物医学研究最先端—

会期：2024年6月19日(水)～21日(金)

会場：函館大沼プリンスホテル、北海道大沼国際セミナーハウス

日本医学会連合が開催したこのリトリートの趣旨は、「各自の研究発表を通じ、研究者間の交流・連携・横断的研究活動を促進すること」だそうで、この会に参加させていただけたことがとても光栄に思います。日本医学会連合に参画する143学会のうち基礎医学分野にあたる基礎部会15学会(図1)が中心となり、持ち回りで5学会(今回は日本生理学会、日本病理学会、日本免疫学会、日本生化学会、日本ウイルス学会)の企画委員が企画し、基礎部会関連学会で活躍する若手中堅会員50名が招待され、25演題の口頭発表と25演題のポスター発表に分かれ3日間密に過ごした濃厚なものでした。企画担当であった日本生理学会からは多めの4名の参加者でした。

「リトリート」という言葉は「仕事や生活から離れた非日常的な場所で自分と向き合い、心と身体をリラックスさせる過ごし方」という意味のようです。これまでの2回が2日間の開催だったのが、今回は3日間になったため、日程の確保が大変だった分、大自然の中に位置する会場で開催され、遊覧船クルーズやBBQなど素晴らしい気分転換とリフレッシュにもなりました。副会長である高橋雅英先生も参加され、生理学会からは企画委員として赤羽悟美先生(東邦大学)、若手企画委員として須田悠紀先生(山梨大学)、そして教育・研究推進委員会委員長として本間さと先生(札幌花園病院)も現地参加されてリトリートを盛り上げていただき、若手を激励していただきました。素晴らしいリトリートを企画運営された先生方と推薦していただきました日本生理学会に厚く御礼申し上げます。初めは臨床よりな基礎医学研究者の集まりを想像していたのですが、実験動物を使った実験や分子レベルの検証をトップジャーナルに掲

載されるようなハイレベルな研究が多く、とても勉強になりエンカレッジされ有益な素晴らしい時間を過ごすことができました。

会場の函館の大沼は函館空港からバスで1時間弱の北海道駒ヶ岳の南に位置する大沼の湖畔の大沼プリンスホテルで初日を迎えました(写真1)。口頭発表のセッションの名前が Sirius, Canopus, Alpha Centauri, Arcturus, Vega の5つの名前で構成されており Rising Star を謳う会の粋な趣

基礎部会 (15)

2	日本解剖学会
3	日本生理学会
4	日本生化学会
5	日本薬理学会
6	日本病理学会
7	日本癌学会
9	日本細菌学会
10	日本寄生虫学会
14	日本栄養・食糧学会
44	日本ウイルス学会
49	日本医真菌学会
55	日本人類遺伝学会
69	日本免疫学会
96	日本神経病理学会
137	日本骨代謝学会

図1. 日本医学会連合143学会のうち基礎部会15学会。



写真1. 大沼プリンスホテルの部屋からの大沼と北海道駒ヶ岳の朝焼けの写真(朝4時ごろ)。



写真2. 最終日の優秀発表の表彰式の様子。手前の右から3人目が著者。左が高橋先生と本間先生。



写真3. ポスター賞の賞状と盾。

向に感心させられました。

初日は移動もあり15時からの開始でしたが、初日から、若手中堅研究者らがトップジャーナルの研究成果を発表されていました。異分野の刺激的な研究に触れて、いつも使っていない頭を使い大変気持ちの良い疲れ方をしました。研究のアプローチの方法や、解析手法のノウハウなど若手ということもあり、最新の攻め方を紹介されるので、

メモ帳はすぐにいっぱいになりました。良い意味で非常に頭を使う時間になり会場内の写真を撮ることを失念しており、この場で紹介できないことが悔やまれます。夜の懇親会では、年齢も近いために質問する障壁を感じず、多くの先生方と知り合うこともできました。懇親会の際に、ポスター発表者はフラッシュトークで研究紹介させていただいたのですが、その後の質問や会話のネタになり非常に助かりました。2日目3日目にオーラルで話される先生の紹介もあればさらによかったですと感じました。さらに言えば時間を短縮しても良いので全員オーラルでも良いかと思いました。

2日目はホテルでは地元の食材や料理満載のビュッフェ形式の朝食に舌鼓した後に、北海道大沼国際セミナーハウスに移動し、さっそくプレナリーレクチャーで竹田潔先生（大阪大学免疫学フロンティア研究センター）の「腸内細菌と宿主の相互作用機構」というお話を聴講できました。腸内細菌には明るくなかったのですが、お話が大変面白く無限の可能性を感じました。夕方にセミナーハウスのホールで開催されたポスターセッションでは、緑内障に重要な眼圧の概日リズムの研究についてポスター発表をさせていただきました。生理学会では聞かれないような解剖学的な視点や免疫学的視点の質問を得られて大変勉強にな

り、自分の研究の波及効果にも気づかされました。会場の雰囲気も、異分野の集まりとは思えないほど、活発に議論がそこら中で繰り広げられており、ぎらついた参加者の目つきはぜひとも自分の学生に見習ってもらいたいと感じました。場所や時間に限られておりお話を聞ける演題に限りがありましたが、その後のセミナーハウス前の芝生で行われたBBQで、一気に距離が縮まり、研究や大学業務における大変なことや、苦勞されたこと、自分たちの強みや共通した知り合いについてなど話は尽きませんでした。2日目は帰ってからホテル地下のラウンジでテーブルを囲んで研究・仕事談議を楽しみました。分野あるあるやトリビア、大学ごとの体制の違いなど勉強させられることばかりでした。

3日目は午前中だけの1セッションでしたが、

やはり考え方やアプローチなどが一番参考になりました。また最後には口頭発表とポスター発表から参加者がWeb投票した優秀3演題が発表され、光栄なことにポスター賞を受賞できました(写真2)。これだけ異分野の突出した先生方の集まる中で受賞できましたことは、大変かっこいいガラス盾もいただき、これからの励みになります(写真3)。3日間を通じて、共同研究まではいかないにしてもお互い使える機器や技術、リソースの融通について連絡を取り合い、結果次第では共同研究に発展するだろう出会いをいくつも得ました。本当の意味での異分野融合を自ら体感できた会であり、今後の自分の研究人生の糧になる会でもありました。若手で盛り上げて生理学・科学・医学の発展に貢献してまいりたいと思います。